「おかげ」と「せい」について

―用例分析を中心に―

境　　希 里 子*

A Study of “Okage” and “Sei”

Kiriko Sakai

要　　旨　日本語学校では，外国人留学生に，「せい」は好ましくない結果の原因・理由を表すと説明する。実際の社会での用い方は，もっと広いのではないか。境（2000）は「せい」と，「せい」と対をなす「おかげ」について調査した。本稿は，その経年変化調査報告である。まず，辞書における説明や例文をもとに，「おかげ」は好ましい結果，「せい」は好ましくない結果の原因・理由を表すと仮定した。論文での用例を調べ，両者は文章語ではないこと，感情表現であることを確認した後で，新聞記事等の用例を分析した。その結果，「せい」は「おかげ」より実際の社会で用いられる割合が高いこと，「せい」の用例に仮定と異なるものが多数あること，中立の「せい」（文の前件と後件を漠然と繋いでおり，「せい」特有の感情も入っていない用い方）が存在することを再確認した。初出のときは基本的な用い方を教えるにとどめるのは当然だが，日本語の学習進度に合わせて，実際の社会での広い用い方も説明すべきである。日本語が母語である者は，母語であるがゆえに見過ごしていることもある。日本語を客観的に見ることも忘れてはいけない。

キーワード　　おかげ　せい　原因・理由と結果

1．はじめに

日本語学校では，外国人留学生に，「せい」は悪い結果の原因・理由を表す，と教える。しかし，新聞記事等の「せい」が含まれた文は，悪い結果だけではない。良いとも悪いとも判断できないものもある。文の前件と後件を漠然と繋いでおり，「せい」特有の感情も入っていない。この用い方を，中立の「せい」と呼ぶことにする。

日本語学校で教える用い方よりも実際の社会での用い方のほうが広いのではないか，それは外国人留学生に教える必要があるくらい一般化しているのか。国語辞典を調べてみると，『岩波国語辞典　第五版』の「せい」の項に，「努力したせいで合格した」という例文が載っていた。「合格した」は良い結果である。外国人留学生は，この例文の意味をどのように解釈したらいいかわからない。「せい」と「合格」が結びつかない。では，日本語を母語とする者はどうなのか，この例文は実際の社会で支持されるのか，という新たな疑問も生まれた。

* 本学准教授　日本語教育

そこで「せい」と，「せい」と対をなす「おかげ」について調べ，境（2000）にまとめた。本稿は，その経年変化調査報告である。前回の調査から時が経ち，辞書の版も変わった。『岩波国語辞典』も第七版になり，前述の例文は載っていない。この十数年の間に，辞書における説明や新聞記事等の用例に変化があったか，どのような変化かを検証する。

前回の調査概要と結果を簡単に述べてから，今回の調査報告をする。前回は，辞書での説明をもとに「おかげ」と「せい」の用い方を仮定する，文献調査を行う，文献調査をもとに「おかげ」と「せい」の使い分け調査用紙を作成して学生に回答してもらう，という段階を踏んだ。今回は，経年変化調査の第一段階として，文献調査までを行う。

２．前回の調査概要と結果

まず，日本語学校の教科書と問題集を調べ，「おかげ」は良い結果，「せい」は悪い結果の原因・理由を表すとなっていることを確認した。国語辞典等８冊の説明文を総合的に考えて，「おかげ」と「せい」の用い方は，日本語学校の教科書の説明と同じでよいと判断した。

「おかげ」は良い結果，「せい」は悪い結果の原因・理由を表すと仮定し，仮定とは異なる用例があるかどうかを新聞等で調べた。仮定と異なるものは，『讀賣新聞』（1999 年３月～８月，朝刊・夕刊）では「おかげ」54 例中７例，「せい」73 例中 21 例，『週刊文春』（1999 年３月～８月）では「おかげ」８例中３例，「せい」10 例中５例だった。文化学園大学（当時は文化女子大学）の日本人学生の作文（1996 年度～ 1998 年度，夏期集中授業「役に立つ文章テクニック」，作文数 532）では，「おかげ」15 例中３例，「せい」21 例中４例だった。

仮定と異なる用例をもとに，「おかげ」と「せい」の使い分け調査用紙を作成した。設問はⅠ～Ⅲにわかれている。1999 年７月に，文化学園大学（当時は文化女子大学）に在籍している日本人学生 208 名，外国人留学生 51 名に回答してもらった。設問と回答を，簡単に紹介する。

・Ⅰ（16 問）は，「おかげ」と「せい」を用いた文を読み，自然（違和感がない）かどうかを○×で答える。例えば，後件が中立である「姉が紺色の服をよく着るせいか，私もよく着るようになった」は，日本人学生は○ 201 名・× 7 名，外国人留学生は○ 27 名・× 24 名だった。日本人学生は中立の「せい」を受け入れている。外国人留学生は判断に苦しんでいる。『岩波国語辞典』の例文「努力したせいで合格した」は，日本人学生は○ 8 名・× 200 名，外国人留学生は○ 10 名・× 41 名と，両者から支持されなかった。辞書の例文として適切ではない。

・Ⅱ（8 問）は，ある文を示し，「おかげ」と「せい」のどちらかを選ぶ。「健康に気をつけて生活している〔おかげ・せい〕か，心にも余裕が出てきた」は，日本人学生は「おかげ」100 名・「せい」108 名，外国人留学生は「おかげ」43 名・「せい」8 名だった。「おかげ」の前件に，自分に関することは使えない。自分で自分に感謝することになるからだ。日本人学生は，用い方として，または語感としてそのことを理解している学生がいるため，約半数が「おかげ」を避けている。外国人留学生は，前件が自分に関することがどうかは関係なく，このような設問の場合は，後件が良い結果なら「おかげ」，悪い結果なら「せい」を選んでいる。

・Ⅲ（6 問）は，与えられた前件の内容を踏まえた上で「おかげ」「せい」に続く文を完成させ

る。外国人留学生は，「平和な世の中のおかげで」に続く文は，全員が良い結果の内容を書いていた。しかし，「平和な世の中のせいで」に続く文は，悪い結果34名，良い結果3名，意味不明の内容5名，無回答9名だった。「平和な世の中」という良いことと「せい」を一緒に用いていることに混乱している学生がいた。前件・後件ともに，「おかげ」は良いこと，「せい」は悪いことと思っている。

文献調査と学生への調査の結果，「『せい』は日本語学校で教えている用い方よりも実際の社会での用い方のほうが広い。中立の用い方もある」「外国人留学生は，中立の用い方に気がついていない，もしくは慣れていない」ということを実証した。「せい」が初出のときは，悪い結果の原因・理由を表すという説明でよいが，学習進度等に合わせて中立の用い方も説明すべきであることを提言した。

3.「おかげ」と「せい」の辞書における説明

高校生・大学生から社会人向けの辞書である『岩波国語辞典　第七版』(a)，『広辞苑　第六版』(b)，『新明解国語辞典　第七版』(c)，『大辞林　第三版』(d)，『日本語　語感の辞典』(e)では，「おかげ」と「せい」の意味を以下のように説明している。

(b)～(d) は，電子辞書でも採用されている。辞書と言えば電子辞書を指す学生にも，なじみのある辞書である。(e) は，意味を調べる国語辞典に対し，語感を知る手がかりになる専門辞典として刊行された。今回の調査には適しているので加えた。

■おかげ

①人の力添えや神仏の助けなどによって受ける恩恵　・・・(a) (b) (c) (d)

②（善悪にかかわらず）ある人や物事がもたらす結果・影響・状態・・・(a) (b)

③ある人や物事がもたらす，好ましい結果・影響・状態　・・・(c) (d) (e)

④好ましくない結果が生じたことに対する皮肉・逆説的用法　・・・(c) (d) (e)

「善悪にかかわらず」となっているのは，『岩波国語辞典　第七版』と『広辞苑　第六版』である。しかし，①の説明に続いて②が書かれており，「善悪にかかわらず」も括弧書きのため，③に近い印象を受ける。両辞典の②の例文を見ると，前者は「あそこが倒産したおかげで，こちらまでえらい損害だ」，後者は「あいつのおかげでえらい目にあった」と，④の意味の例文が載っている。前者には，もう一つ，「目立たなかったのは地味な服のおかげだ」という，どのように解釈したらいいのかわからない例文も載っていた。

■せい

①ある原因の結果，物事の起こる原因・理由　・・・(a) (e)

②ある物事（多くはよくない物事）の原因・理由・・・(b)

③ある（好ましくない，悪い）結果の原因・理由・・・(c) (d)

善悪に触れていなかった（①）のは，『岩波国語辞典　第七版』と『日本語　語感の辞典』である。しかし，前者の例文5つのうち4つと後者の例文2つは，「彼がいたせいで悪い事を覚えた」等，③の内容であった。前者の例文の1つだけ，「彼が同級生だったせいで大いに啓発され

た」と，③とは明らかに違うものだった。

辞書の説明の流れや例文からは，日本語学校で「おかげ」は良い結果，「せい」は悪い結果の原因・理由を表すと教えるのは妥当であると言える。ただ，「せい」の②③ともに「よくない，好ましくない」が括弧書きであることから，実際の生活では，もっと幅広い解釈・用い方をしていると推察できる。辞書における説明は，前回の調査時と大きな変化はない。

『日本語　語感の辞典』には，「おかげ」は「会話や硬くない文章に用いられる」，「せい」は「主に会話に使われるくだけた」言葉だと説明してある。このような説明も，外国人留学生だけでなく，最近の日本人学生には必要である。

4.「おかげ」と「せい」の用例

実際の社会で「おかげ」と「せい」がどのように用いられているかを調べる。用例中の下線は，筆者による。また，日本語学校での言い方にならって「良い・悪い」と表現していたが，これ以降は，辞書にある「好ましい・好ましくない」という表現にする。外国人留学生にとっては，「良い・悪い」のほうが，簡潔でわかりやすい。

「おかげ」は好ましい結果，「せい」は好ましくない結果の原因・理由を表していると仮定する。まず，論文を調べる。客観的な書き方をしなくてはいけない論文では，好ましいか好ましくないかという感情を表現する「おかげ」と「せい」は用いないはずだ。『日本語　語感の辞典』では，「おかげ」は好ましい結果をもたらしたものに「感謝の気持ちを述べる」言葉であるとなっている。『外国人のための日本語　例文・問題シリーズ２　形式名詞』では，「せい」は「責任を他人または外に転嫁する気持ちがある」となっている。結果が好ましいかどうかだけでなく，言葉自体が感情を表している。

次に，新聞記事や小説，評論，手紙を調べる。仮定と異なる用例があった場合は，どのような意味で用いているかを考察する。「せい」は，仮定と異なるなかに中立の用い方がどのくらいあるかも検証する。

4．1　論文

論文は，真実を客観的に述べなくてはいけない。個人的な意見や感想を書いているのではないことを明確にするために，「私」ではなく「筆者」を用いる。感情的な表現も避ける。「おかげ」と「せい」も感情が入る，もしくは感情を示唆する表現であるので，論文では使用されないはずだ。中立の「せい」も，感情表現の「せい」の影響を受けてしまうため避けるはずだ。また，「おかげ」「せい」ともに，論文やレポートで用いる文章語ではないという観点からも，同様のことが言える。

『日本語教育』150 号（2011 年 12 月）から 155 号（2013 年 8 月）までを調べた。日本語教育学会の学会誌である。会員は日本語教育関係者が多く，日ごろから言葉の使い方には細心の注意を払っている。6 号合計で，寄稿論文 16，研究論文 9，調査報告 5，実践報告 8，研究ノート 2，大会報告等 7 の 47 本を調べた。「おかげ」は 6 例，「せい」は 2 例あった。

「おかげ」6 例中 4 例は，大会報告の中で「こうした多くの方々のおかげで，今大会では内容面でも運営面でも，日本語教育学会の底力を示すことができたと感謝している。」(154 号：3) 等，礼を述べるときに用いていた（151 号：1，154 号：13・47)。2 例は，調査対象者である外国人の母親の発話「……おかげで生活面はその友だちが手伝ってくれるようになった」(155 号：169）と，外国人学生の発話（の要約)「筆者がミキに主張が決まったか尋ねると，『ヨウさんのおかげ』で決まったと嬉しそうに話した。」(152 号：36）であった。発話をそのまま，もしくは要約して記すのであれば，感情が入っていても構わない。どちらも好ましい結果を表している。「おかげ」の用い方に問題はなかった。論文で「おかげ」があるとすれば謝辞だろうと予想していたが，謝辞にはなかった。

「せい」も 1 例は，外国人の母親が「……でも私のせいで子どもが不利になることだけは絶対ないようにしたかったから，頑張って勉強した。」(155 号：60）と話している部分だった。仮定と同様の用い方だ。もう 1 例は，

> 本当に言いたいことをあらわせないのは日本語のせいではなく，目の前の仲間がなぜそのような問いを自分に向けるのかを理解しないまま，権威者である専門家や教師のことばで語り続けていたからだと考えられる。(152 号：40)

である。「日本語が原因ではなく」とせず，「日本語のせいではなく」としている。この文の後半部分が執筆者の主張の基盤をなすため，強調する意味合いで「せい」を用いたのだろう。1 例ではあるが，執筆者の考えを述べている部分に「せい」が存在した。主張したいことであるため力が入ったのか。客観的な書き方をしなくてはいけない論文の中で，そこだけ違和感があったことは否めない。論文にはなじまない表現である。

4．2　新聞記事

発行部数 1 位の『讀賣新聞』を対象とし，2013 年 8 月 1 日（木）から 10 日（土）までの東京本社版の朝刊と夕刊を調べた。朝刊は，一面以外のすべての面が，総合，政治，国際，経済，投書，解説，商況，くらし，教育，スポーツ，文化，地域，社会，番組等の分野ごとに分類されている。面の最上段に「12　スポーツ」と書いてあれば，12 面で，スポーツ関連の記事が載っていることを示している。夕刊は，面を表す数字だけである。調査では，番組と連載小説，広告は除外した。

「おかげ」は 11 (朝刊 11・夕刊 0)，「せい」は 13 (朝刊 6・夕刊 6・日曜版 1）の用例があった。そのうち，仮定と異なるものは「せい」の 4 例だった。用例の最後に，日付と朝刊・夕刊の別，朝刊は面の分類名，夕刊は面の数字を記した。また，署名記事の場合は，名前も記した。

(1) 健康的な生活を続けているせいか，以前より肌がきれいになったような気がしている。(1 日朝刊・投書)

(2) 米国製で，アメリカ在住の美容家が以前，香水の生産地として有名なフランスのグラース

にいた頃に発想した製品だという。そのせいか，柔らかで繊細な，心地よい香りがする。（5日夕刊・2面　森井ユカ「石鹸『原石』から『宝石』へ」）

(3) 日本人なら誰でもおにぎりだろうと思っていたら，女房は「お弁当はいつもサンドイッチに紅茶だった」と言った。一回り若いためおにぎりに目覚めていないのか，アメリカ生まれで洋風かぶれだったのか，とにかく驚かされた。そのせいか，家族で暮らしたイギリスでは，子供達の弁当は常にランチボックスに温かい紅茶とサンドイッチだった。（4日・日曜版　藤原正彦「弁当はおにぎりが一番」）

(4) あの丸顔の女の子が，メークのせいもあるだろうが，ずいぶんと大人びたものだ。（5日夕刊・11面　CM界「エステー『消臭力／ラッキー編』」）

(1) と (2) は好ましい結果である。しかし，「おかげ」を用いることはできない。(1) は，前件が自分の行いに関することである。「ため」，もしくは投書であることや全文の流れを考慮して「から」にする。(2) は，「その」が指す内容を具体的に置きかえてみると，「～製品のおかげか，～」となる。「～発想したおかげか，～」でないと後件の内容に続けることができないので，前件にあたる文の構成を変えなくてはいけない。さらに前件は，「おかげ」で感謝の気持ちを表すほどのことではない。全体としても，石鹸の誕生秘話と手にした感想であり，原因・理由と結果という結びつきも弱い。「ため」を用いることもできるが，「そのせいか」の部分を削除したほうがすっきりする。

(3) は，後件だけ読むと，好ましくない結果とは言えない。しかし，藤原正彦氏にとっては好ましくないことである。「弁当と言えばおにぎりに決まっている」という強い気持ちを表すために「せい」を用いている。まさしく感情が入っている。(4) は，コマーシャルに出演している女の子を見て，子供の成長は早いという感慨を述べている。好ましいとも好ましくないとも言えない。中立の「せい」である。

新聞における「おかげ」と「せい」の用例は，名前が記されている投書や署名記事に多い。先述したように，「おかげ」の11例は，すべて朝刊に載っていた。面の分類では，投書6，文化2，スポーツ1，地域1，社会1となる。投書以外の5例のうち，3例は署名記事，2例は記事中の発話部分である。「せい」は朝刊6例（投書3，解説1，くらし1，社会（4コマ漫画）1），夕刊6例（2面・2，11面・2，5面・1，13面・1），日曜版1例だった。用例 (4) だけが，名前が記されていなかった。文章の最後に漢字一文字が書いてあり，署名代わりのようだった。

載っている面も一面や政治，経済，社会（三面記事に該当する）ではない。社会に2例あったが，1例は特集記事のなかでの発話部分，1例は4コマ漫画であり，事件や事故，社会情勢の記事ではない。論文と同じく，真実や事実を客観的に述べなくてはいけない記事には用いていない。

「おかげ」と「せい」は，新聞社としての見解とは一線を画し，比較的自由に個人の意見や感想を述べることができる文章に用いられている。感情表現である，文章語ではないことが，このことからも確認できる。

前回の調査で新聞記事を調べたときは，6か月分（約180日分）の朝刊と夕刊を対象にした。

今回は10日分の朝刊と夕刊である。用例数は，「おかげ」は前回53・今回11，「せい」は前回73・今回13と，日数に対する出現割合は今回のほうがかなり高い。その理由として，新聞に「おかげ」や「せい」等の感情表現を用いても構わない，例えば料理やファッションなど日々の暮らしに関わる記事や体験談の記事が増えたことなどが考えられる。新聞記事にどのような表現を用いているかを調べることによって，社会における新聞の役割の変化がわかる。

4．3　小説

三浦しをん氏の『舟を編む』と村上春樹氏の『色彩を持たない多崎つくると，彼の巡礼の年』の二冊を調べる。『舟を編む』は，雑誌に連載されていたものが2011年に単行本として刊行された。「言葉の海を渡る舟」である辞書を編纂する，出版社の辞書編集部の物語である。2012年に「全国の書店員が選んだ　いちばん！売りたい本　2012年本屋大賞」の大賞と，「キノベス！2012」（全国の紀伊國屋書店のスタッフが推薦する本）の1位を受賞している。映画化もされた。「キノベス！2012」の授賞式およびトークセッション（2012年2月4日，新宿・紀伊國屋サザンシアター）で三浦氏は，「家族であっても辞書は共有しない。一人一冊。調べたいときに手元にないと困る」と話していた。書籍を売る立場である書店員から支持されている，辞書編纂の物語である，三浦氏自身も言葉に厳しいという理由で選んだ。

村上氏の小説は，常に発売前から話題になる。『色彩を持たない多崎つくると，彼の巡礼の年』は，2013年4月に刊行された。予約だけで4刷が決定し，発売から7日目には100万部に達したという。2013年上半期（2012.12.1 ～ 2013.5.31）のベストセラー「総合1位」である（日本出版販売株式会社（以下，日販と記す）調べ）。多崎つくるは，高等学校のときに親友が4人いた。4人とも氏名に色の名前が入っている。大学2年生のときに，多崎は4人から縁を切られた。理由はわからない。大学卒業後，鉄道会社で駅舎の設計管理をしている多崎は36歳になった。年上の彼女の勧めで，絶縁された理由を聞くために16年ぶりに4人に会いに行く話である。村上氏自身や小説の話題性，発行部数で選んだ。

4．3．1　『舟を編む』

「おかげ」は15（会話6，地の文7，手紙2），「せい」は14（会話1，地の文13）の用例があった。そのうち，仮定と異なるものは「おかげ」1例，「せい」2例だった。すべて地の文だった。文中の馬締（まじめ）は，主人公の名字である。

(5) 馬締は佐々木と手分けし，用例採集カードと何種類もの辞書とをめくりつづけた。おかげで指紋がすり減り，ものがうまくつかめなくなったほどだった。(p.44)

(6) 玄武書房辞書編集部は，手薄のファッション関係だけ，先行して専門家に連絡を取っていた。そのせいか，ほかの出版社の辞書編集者のあいだでは，「どうも玄武書房が，新しい辞書の編纂に着手したらしい」と，すでにして噂されはじめているようだった。(p.61)

(7) 廊下の窓から日が差すせいで，二階は一階よりもやや明るかった。(p.149)

(5) の「おかげ」は，好ましくない結果である。しかし，「そのせいで」とするよりは，それほどの量をこなしたことを強調する皮肉・逆説の「おかげ」と解釈すべきだろう。

(6) は上層部が辞書の編纂の中止命令を出せないように既成事実を作ってしまおう，他社に噂を広めて後戻りできないようにしようという場面，(7) は辞書編集部に配置換えになった女性社員が，辞書編集部のある建物の薄暗い一階から階段を上がり，二階に到着した場面である。どちらも，辞書編集部や女性社員の心情からすれば好ましい結果となる。ただ，上記の文だけから判断すれば，(6) は中立の「せい」となる。(7) は，「おかげ」か「ため」のほうが自然である。

4．3．2 『色彩を持たない多崎つくると，彼の巡礼の年』

「おかげ」は 4（会話 2，地の文 2)，「せい」は 18（会話 9，地の文 9）の用例があった。そのうち，仮定と異なるものは「せい」の 3 例だった。会話 1 例，地の文 2 例である。

(8) たしかに名前のせいで，担う荷の形状は少しくらい変わったかもしれない。(p.60)

(9) 二人の姉と一緒に育ったせいだろう，彼は年上の女性といると自然に寛ぐことができた。(p.132)

(10)「たとえばおれの後ろ盾になってくれたサラ金の社長は，おれたちの高校時代のボランティア活動について書かれた新聞記事を読んでいて，そのせいでおれのことを頭から信用してくれた」(p.196)

いずれも前件が自分のことと関係している。主人公である多崎つくるの「つくる」は，漢字で書くと「作」である。父親は，「作」か「創」かで迷ったが，「作」に決めた。(8) の名前とは，「名前の漢字」を指す。この文だけで判断すると，中立の「せい」になる。しかし，前後の文章もあわせると，「担う荷の形状が変わった」のは，つくるにとって好ましい結果であることがわかる。名前をつけたのは父親であるが自分の名前であるため，つくるの心情を表しているため，「おかげ」を避けたのか。(9) と (10) は，明らかに好ましい結果だ。(9) の前件は家庭環境を述べており，「彼」に続く文なので「おかげ」を用いることができる。(10) は，絶縁理由を聞くために訪れた友人の一人の言葉である。新聞を読んでいてくれたことへの感謝なので，「おかげ」でよい。友人は，成功者と言える。けれども，人生という道の真ん中を堂々と歩いているかと問われると，本人は弁明したくなる。高等学校時代のほかの友人も，「彼は成功した。でも……」となる。その気持ちが「せい」で表現されている。

4．4 評論

阿川佐和子氏の『聞く力　心をひらく 35 のヒント』と平田オリザ氏の『わかりあえないことから―コミュニケーション能力とは何か』の二冊を調べる。どちらも新書判である。阿川氏は，「『新書』とはそもそも，学術的側面において人様に知らしめるべき知識や技術や意欲を持っている人が記すもの」(p.7) だと述べている。物語である小説とは異なる。文章も論文に近く，「おかげ」「せい」の出現率は低いのではないか。

阿川氏の『聞く力　心をひらく 35 のヒント』は 2012 年 1 月に刊行され，年間ベストセラー（日販調べ）となった。2012 年に唯一，100 万部に達した書籍である。『週刊文春』で 1993 年から連載されている対談「この人に会いたい」の体験をもとに書かれている。年間ベストセラーであること，阿川氏が雑誌やテレビ番組での対談，執筆活動を長年にわたって行っていることから

選んだ。

平田氏は，大学在学中に劇団を結成し，戯曲と演出を担当している。現在は，大阪大学コミュニケーションデザイン・センターの教授でもある。コミュニケーション教育についての専門家であり，小学校でもワークショップを行っている。外国人に対する日本語教育の講座の監修もしている。「わかりあえないところから出発するコミュニケーションというものを考えてみたい。そして，そのわかりあえない中で，少しでも共有できる部分を見つけたときの喜びについても語ってみたい」（p.5）とある。劇団や教育現場という，言葉や表現を重んじる場で仕事をしている平田氏の本であることから選んだ。

4．4．1 『聞く力　心をひらく 35 のヒント』

「おかげ」は 10（そのうち発話 1），「せい」は 15（そのうち発話 3）の用例があった。仮定と異なるものは，「おかげ」「せい」とも 1 例ずつだった。

（11）あのとき，聞きにくい質問をあえてしたおかげで，かけがえのない方と出会うことができた私は，まことに果報者です。（p.138）

（12）今思えばそれは，私があまりにもその問題に無知だったせいで，逆に安心なさったのではないかと思います。（p.206）

前述の，新書とは何かについて述べている阿川氏の言葉は，「……記すものであり，私は，その範疇にありません」と続く。自分がこのような本を出していいのか，刊行となった今でも躊躇しているという。全編を通して，幅広い年代層の聴衆に語りかける講演会のような文章である。自分の考えについて，自分でボケとツッコミをしている場面もある。対談が成功した体験話も，自慢にならないように気をつけている。それが（11）の「おかげ」に表れている。「おかげ」は好ましい結果の原因・理由を表すということにおいては合っているが，自分の行為を自分で褒めている。本来は「おかげ」を用いることはできない。照れ隠しに故意に使用したのではないか。（12）は，結果は好ましい。「せい」は，前件の負の要因と結びついている。知らないことがあってもうまくいく，大丈夫ですよということを強調したかったのか。どちらも「ので」のほうが自然である。

4．4．2 『わかりあえないことから―コミュニケーション能力とは何か』

「おかげ」「せい」とも，用例はなかった。大学の講義のようであり，論文に近い印象を受ける。学術書としての新書を思い浮かべたときの文章である。例えば，「日本社会全体が，コミュニケーション能力に関するダブルバインドが原因で，内向きになり，引きこもってしまっている」（p.19）の「が原因で」のように，「のせいで」とすることもできる箇所もあるが，用いていない。感情を入れずに持論を展開している。平田氏が，「おかげ」と「せい」を劇ではどのように用いているか，機会があれば脚本を調べてみたい。

4．5　手紙

手紙とは言っても，季節のあいさつから書く手紙ではない。父親，母親に語りかけている文章である。内容からして「おかげ」と「せい」，特に「おかげ」を用いる確率が高いのではないか

と『文藝春秋』2013年7月号「あなたの子供に生まれてよかった　父への手紙，母への手紙」を調べた。

「おかげ」は8,「せい」は5の用例があった。そのうち，仮定と異なるものは「おかげ」「せい」とも2例ずつだった。

(13)「あそこは修整がうまい」って評判で，細かくて忍耐の必要な修整作業はもっぱらオフクロたち女の仕事だったから，毎晩遅くまで働いていたのをよく覚えている。おかげで俺は親の目を盗んでやりたい放題だったけどな。(p.327　立木義浩)

(14) お父さんが免疫をつけてくれたおかげで，男っ気のない人生を送っています。(p.328　梨元麻里菜)

(15) お父さんは私が子供のころから，「芸能リポーターになれ。二世のリポーターはいないんだから」と言い続けましたよね。それは私を手元に置いておきたいせいだと思っていたけれど，仕事に誇りをもっていた証しでもあるということが，最近になってわかりました。(p.329　梨元麻里菜)

(16) 国語系の気安い先生が少ないせいで，いろいろな仕事に引っ張り出されています。ありがたいことです。(p.330　金田一秀穂)

(13) は，「おかげ」に続く内容は好ましくない。手紙を書いた立木氏は，当時の自分の行動を自嘲気味に書いている。働く母親への感謝の気持ちが「おかげ」に表れている。(14) は皮肉・逆説の用い方だ。(15) は中立の「せい」になる。梨元氏の手紙を読み進めていくと，父親である芸能リポーター・梨元勝氏が亡くなるまでリポーターになる気持ちはなかったことが書かれている。それで，好ましくないこととして「せい」を用いているのだろうが，読み手は，この段階ではそこまで理解できない。「から」のほうが落ち着く。(16) の後件「いろいろな仕事に引っ張り出されています」は，中立もしくは好ましくない結果と受け取れる。続く「ありがたいことです」で，金田一氏は好ましいととらえていることがわかる。好ましいからといって「おかげ」にすると，「国語系の先生」に対して失礼な言い方，皮肉にもなる。「ので」が無難だろう。

4．6　まとめ

「おかげ」「せい」は感情表現であり，文章語ではない。論文やレポートには用いないはずだということは，「4．1　論文」で，執筆者の意見を述べている部分には「せい」が1例だけだったことから検証できた。また，新聞記事においても，真実や事実を客観的に述べる事件や事故等の記事，表現に細心の注意を払わなくてはいけない国際問題等の記事には用いていないことからも，同様のことが指摘できる。「4．4　評論」でとりあげた平田氏も用いていなかった。新書が創刊された当時の学術的な流れを受けた文章，論文やレポートに近い文章であることがわかる。

新聞記事や小説，評論，手紙の「おかげ」の用例は，合計で48だった。そのうち，仮定と異なるものは4例だった。2例は，皮肉・逆説である。日本語学校では，「おかげ」を学習するときに，紹介程度であるが，皮肉・逆説の用い方も説明する。外国人留学生も，用例を読んだときに，理解はできる。「せい」の用例は，合計で65だった。仮定と異なる用例は，そのうち12例

あった。12 例中，中立の「せい」は 4 例だった。「せい」のほうが用例が多い（実際の社会で用いられる割合が「おかげ」より高い）こと，「せい」の用例に仮定と異なるものが多数あること，中立の「せい」が存在することは，前回の調査と同様だった。

前回は，日本人学生の作文も調べた。しかし，532 の作文（1 つの作文の長さは 600 字～ 800 字）を調べても，「おかげ」は 15 例，「せい」は 21 例と少なかった。筆者が担当している短期（三日間）集中授業である「文章作法　基礎の基礎」では，祝辞の原稿を書かせる。前回の調査以降では，祝辞の原稿に「A さんのアドバイスのおかげで～」等，感謝の気持ちを伝える「おかげ」が数例ある程度だ。用い方も適切である。作文の題を限定して誘導しなければ，「おかげ」「せい」の用例を調べるのは難しい。

辞書に続き，文献調査でも前回と比べて際立った変化はなかった。「おかげ」と「せい」は，若者言葉や流行語とは異なり，時とともに意味や用い方が大きく変わる表現ではない。使用頻度も低い。しかし，感情表現であるからこそ，用い方を間違えたり文意を取り違えたりすると，自分の気持ちや相手の気持ちが的確に伝わらない。

「せい」の初出のときは，外国人留学生の混乱を避けるために，「せい」は好ましくない結果の原因・理由を表すという説明にとどめておかなくてはいけない。しかし，学習進度に合わせて，実際の社会ではそれよりも広い用い方をしていること，中立の「せい」があることを説明する必要がある。

5．おわりに

本学の外国人留学生対象科目「日本語」の授業で新聞記事を読んでいたときに，中立の「せい」が含まれている文があった。外国人留学生のなかには，好ましくない結果が書かれているはずなのに，どうしてもそのような内容には思えず，戸惑っている学生もいた。辞書で調べても，中立の「せい」をはっきりと示す説明はない。辞書といえども，説明項目と異なる内容の例文や意味不明の例文も載っている。却って混乱を深めることもある。また，語彙や表現によっては，辞書に載せるには至っていないが，実際の社会ではよく用いているものもある。

外国人留学生は，日本語という大きな木の幹にあたる部分を日本語学校で育てる。太くて長い幹を育て，そこに枝葉をつけていく。「おかげ」や「せい」は使用頻度の低い表現であり，論文やレポートに必要な文章語でもない。小枝 1 本程度の価値しかないかもしれない。ましてや，中立の「せい」は，葉 1 枚程度の取るに足りないことかもしれない。しかし，葉 1 枚であっても増やしておけば，外国人留学生自身で解決できることが多くなる。

日本語が母語である者は，母語であるがゆえに見過ごしていること，当たり前すぎて気がつかないことがある。「せい」の場合も，母語話者としての語感や経験から，中立の「せい」とは意識せずに自然に受け入れている。このようなことは中立の「せい」だけではない。日本語を母語としない者の視点で日本語を客観的に見て，それを彼らに伝えることを心掛けなくてはいけない。

参考文献

阿川佐和子（2012）『聞く力　心をひらく 35 のヒント』文藝春秋

上原佳久（2012a）「年間ベストセラー，阿川佐和子『聞く力』が 1 位」『朝日新聞デジタル』2012 年 12 月 3 日　http://www.asahi.com/culture/update/1203/TKY201212030667.html（閲覧日：2013 年 8 月 26 日）

上原佳久（2012b）「『聞く力』が 100 万部　20 年ぶりのミリオンゼロ回避」『朝日新聞デジタル』2012 年 12 月 10 日　http://www.asahi.com/culture/update/1210/TKY201212100413.html（閲覧日：2013 年 9 月 9 日）

遠藤龍之介他（2013）「あなたの子供に生まれてよかった　父への手紙，母への手紙」『文藝春秋』2013 年 7 月号　文藝春秋　pp.288-344

境希里子（2000）「『おかげ』と『せい』について」東京女子大学現代文化学部 1999 年度研究生・研究報告書

佐藤望（編著）・湯川武・横山千晶・近藤明彦（2012）『アカデミック・スキルズ　第 2 版―大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会

新村出編（2008）『広辞苑　第六版』岩波書店

友松悦子（2008）『小論文への 12 のステップ』スリーエーネットワーク

中村明（2010）『日本語　語感の辞典』岩波書店

名柄迪・広田紀子・中西家栄子（1987）『外国人のための日本語　例文・問題シリーズ 2　形式名詞』荒竹出版

西尾実・岩淵悦太郎・水谷静夫編（1995）『岩波国語辞典　第五版』岩波書店

――――・――――・――――（2009）『岩波国語辞典　第七版』岩波書店

二通信子・大島弥生・佐藤勢紀子・因京子・山本富美子（2009）『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版会

日本出版販売株式会社ホームページ　「年間ベストセラー」http:/www.nippan.co.jp/ranking/yearly.html（閲覧日：2013 年 8 月 26 日）

日本語教育学会学会誌委員会編（2011）『日本語教育』150 号（2011.12）　pp.1-145

――――――――――――――――（2012a）『日本語教育』151 号（2012.4）　pp.1-62

――――――――――――――――（2012b）『日本語教育』152 号（2012.8）　pp.1-75

――――――――――――――――（2012c）『日本語教育』153 号（2012.12）　pp.1-110

――――――――――――――――（2013a）『日本語教育』154 号（2013.4）　pp.1-122

――――――――――――――――（2013b）『日本語教育』155 号（2013.8）　pp.2-197

「発売から 7 日目で 100 万部　村上春樹メガヒットの仕掛け」『日本経済新聞』電子版　2013 年 6 月 17 日　http://www.nikkei.com/article/DGXNASFK1003X_Q3A610C1000000/（閲覧日：2013 年 8 月 28 日）

平田オリザ（2012）『わかりあえないことから―コミュニケーション能力とは何か』講談社

文化外国語専門学校日本語課程（1997）『文化中級日本語Ⅱ』凡人社

本屋大賞ホームページ　「これまでの本屋大賞」http://www.hontai.or/history/index.html（閲覧日：2013 年 8 月 28 日）

松村明編（2006）『大辞林　第三版』三省堂

三浦しをん（2011）『舟を編む』光文社

村上春樹（2013）『色彩を持たない多崎つくると，彼の巡礼の年』文藝春秋

山田忠雄・柴田武・酒井憲二・倉持保男・山田明雄・上野善道・井島正博・笹原宏之編（2012）『新明解国語辞典　第七版』三省堂
『讀賣新聞』（東京本社版）2013 年 8 月 1 日（木）～ 10 日（土）の朝刊と夕刊

資料　＊紙幅の関係で，用例が載っているページ（面）のみを記した。

1．『日本語教育』150 号～ 155 号

おかげ（6 例）

151 号：1，152 号：36，154 号：3，154 号：13，154 号：47，155 号：169

せい（2 例）

152 号：40，155 号：60

2．『讀賣新聞』（東京本社版）2013 年 8 月 1 日（木）～ 10 日（土）の朝刊と夕刊

おかげ（11 例）

1 日朝刊・投書, 4 日朝刊・文化　松山巌「読書委員が選ぶ『夏休みの一冊』」, 4 日朝刊・投書, 4 日朝刊・投書（2 例）, 5 日朝刊・投書, 6 日朝刊・文化　山本芳明「文学と金銭　新たな関係へ」, 6 日朝刊・投書, 8 日朝刊・社会　「『村田さん』の姿　追いかけて」, 8 日朝刊・地域　「海越え就職　今や『娘』」, 10 日朝刊・スポーツ　平地一紀「『怪物』江川卓　栃木・作新学院」

せい（13 例）

1 日朝刊・投書，2 日夕刊・11　オールザットシネマ　近藤孝「ローン・レンジャー」，3 日夕刊・2　こぐれひでこ「こぐれひでこの食悦画帳」，4 日・日曜版　藤原正彦「弁当はおにぎりが一番」，4 日朝刊・投書（2 例）, 5 日朝刊・社会　植田まさし「コボちゃん」4 コマ漫画, 5 日夕刊・2　森井ユカ「石鹸『原石』から『宝石』へ」，5 日夕刊・11　CM 界「エステー『消臭力 / ラッキー編』」，6 日夕刊・13　舩木篤也「ホフマン物語」（二期会）評，7 日朝刊・解説　坂本憲哉「あるはずのもの」，8 日朝刊・くらし「人生案内」，9 日夕刊・5　赤星たみこ「世界一猫バカな私」

3．『舟を編む』

おかげ（15 例）

p.22，p.31，p.35，p.39，p.44，p.100，p.165，p.187，p.188，p.195，p.208，p.242，p.246，p.257（2 例）

せい（14 例）

p.11，p.23，pp.29-30，p.61，p.66，p.77，p.91，p.93，p.117，p.142，p.149，p.157，p.207，p.258

4．『色彩を持たない多崎つくると，彼の巡礼の年』

おかげ（4 例）

p.27，p.60，p.227，p.337

せい（18 例）

p.17，p.28，p.60，p.108，p.122，p.132（2 例），p.147，pp.169-170，p.196，p.203，p.214，p.226，p.233，p.234，p.318，p.333，p.336

5．『聞く力　心をひらく 35 のヒント』

おかげ（10 例）

p.80，p.91，p.107，p.108，p.138，p.147，p.179，p.232，p.236，p.250

せい（15 例）

p.23，p.24，p.38，p.52，p.81，p.82，p.105，p.106（2 例），p.133，p.147，p.148，p.152，p.206，p.239

6．『わかりあえないことから―コミュニケーション能力とは何か』

おかげ（0）　該当なし

せい（0）　　該当なし

7．「あなたの子供に生まれてよかった　父への手紙，母への手紙」『文藝春秋』2013 年 7 月号

おかげ（8 例）

p.295　コシノヒロコ，p.298　野村克則，p.301　土光陽一郎，p.317　鳩山由紀夫，p.320　辻井伸行，p.327　立木義浩，p.328　梨元麻里菜，p.343　島田洋七

せい（5 例）

p.329　梨元麻里菜，p.330　金田一秀穂，p.332　猪瀬直樹（2 例），p.336　麻木久仁子